

世界のオレンジ果汁不足が価格を史上最高に押し上げ

Mintec 2023年10月2日

ブラジル果汁協会(CitrusBR)の最新のレポートによると、2023年6月30日の時点で、ブラジルのオレンジ果汁の在庫量は8万5千トンで前年より40%少ない。この数字は、次のシーズンへの安定した移行に必要と考えられる「技術的最小値」である20万トンを大幅に下回っている。市場関係者らは、果汁の在庫が少ないことで世界の貿易が制限されるため、シーズンを通してサプライチェーンの混乱につながる可能性が高いと指摘した。

欧州のスーパーマーケットは、中期的な需要を満たすことに焦点を当てた大規模な契約を結んでいる。しかし、レポートによると、ブラジルの主要な生産者は広範な長期契約を結ぶことに慎重であり、10月中旬頃にさらなる交渉が行われると予想されている。

レポートは、ヨーロッパの一部のスーパーマーケットでは、100%オレンジ果汁が不足しているとしている。市場関係者によると、価格の上昇と世界市場での果汁の入手の難しさから、オレンジ果汁に対するヨーロッパの需要が20%減少する可能性がある。

特にブラジルとメキシコにおける供給動向は、今後数か月注意深く監視されることになろう。市場関係者らは、次の四半期も高値が続く可能性が高いことを示唆しているが、価格が一定の「均衡点」に達すれば需要が維持できなくなるだろうとしつつ、それがどの水準であるかは不明であるとしている。直近のMintecベンチマーク価格は、ブラジル産濃縮オレンジ果汁[Mintecコード:4Q04]の9月の出荷価格(FOB)が前年に比べて107.1%高い4,370ドル/トンで、1997年に始まって以来の最高水準であった。

執筆者: ハリー・キャンベル

(関連記事)ブラジル 猛暑で柑橘類生産者に警告

サンパウロ大学農学部経済研究センター(Cepea) 2023年10月3日

サンパウロ州では9月の後半は非常に気温が高かった。この激しい暑さは、今シーズン(2023/24年度)と次のシーズン(2024/25年度)の両方でオレンジに損傷を与える可能性があることを柑橘類の生産者に警告するものであった。

Cepea(サンパウロ大学農学部経済研究センター)の協力生産者らによると、現在収穫中である2023/24年度のオレンジでは、最大の問題は萎れであった。水分を失うことによって果実が軽くなるため、(生産者にとっては)品質と収入の両方が低下する。一方、加工業者にとっては、歩留りとブリックスの向上により、果実の質はわずかに向上する。

一方、来シーズン(2024/25年度)については、9月からの暑さの影響はまだ不明であるが、生産者は例年よりも幼果の落果が多くなる可能性を懸念している。その場合、果樹当たりの果実の数が減る可能性がある。

また、多くの果樹園がカンキツグリーンング病の影響を受けているという事実は状況を悪化させる。柑橘類保護基金(Fundecitrus)の調査によると、柑橘類ベルト(サンパウロ州及びミナスジェライス州の三角地帯)の樹木の38.06%が今年この病気の症状を示しており、2022年より56%増加し、6年連続でカンキツグリーンング病の発生率が増加している。